

江戸時代の町なみ

このエリアは、大名の屋敷がたくさんあった。川に囲まれており、稲荷堀や浜町川などの水路を利用して、大名たちの出身地から物資が運ばれたようだ。大名屋敷ばかりだが、元吉原という歓楽街のほか、そ

のすぐ近くに芝居小屋や茶屋などが集まっていた。また、地図にはないが、三叉の近くに月見や夕涼みでにぎわった場所があった。

芝居小屋がたくさんあった町

1 堺町 (現・日本橋人形町三丁目)
葺屋町と共に芝居小屋、茶屋が多くあり、ここには役者たちもたくさん住んでいた。当時大坂から船でたくさんの荷物が運ばれていたことから、大坂に近い堺の名になんでつけられた。



2 葺屋町 (現・日本橋人形町三丁目)
芝居小屋がたくさんあった。屋根葺職人も多く住んでいたため、名づけられた。また、暮踏町ともよばれた。



3 元大坂町 (現・日本橋人形町一丁目)
大坂からの船がたくさん出入りしていたことから大坂町とよばれていたが、新大坂町(→p.169)ができたときに、区別するために「元」をつけたといわれる。

ここにも銀座があった!?

4 銀座 (現・日本橋人形町一丁目)
甚左衛門町の向かいにあった。もともと銀座は京橋の南(→p.177)にあったが、1800(寛政12)年に取りつぶされ、この地に移った。明治維新までここで銀貨をつくっていた。



思案橋
この橋を渡って、歓楽街へ行くかどうかと考へたことからこの名前がついた。



かまど(へっつい)をつくっていたよ!

5 住吉町裏河岸 (現・日本橋人形町二丁目)
6 難波町裏河岸 (現・日本橋人形町二丁目)
住吉町、難波町は、共に古典芸能の音楽(謡曲)のタイトルからめでたい名がつけられた。それぞれの町の裏側の入堀にある河岸で、かまどをつくって売って店が多かったため、へっつい河岸とよばれた。

© (→ p.169)

© (→ p.192)

大名屋敷に囲まれた、華やかな町

7 元吉原
(現・日本橋人形町二~三丁目、日本橋富沢町)

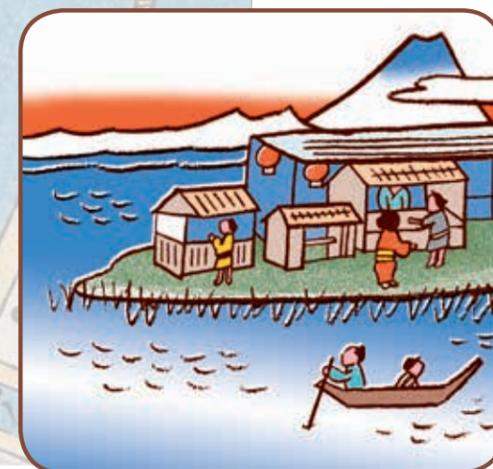
堺町の東一帯に広がる歓楽街。飲食しながらたやおどりが見られる店がたくさんあり、それらを合わせて吉原とよんでいた。明暦の大火のあと、浅草へ移転となったため、「元」の字がついた。

8 甚左衛門町
(現・日本橋小網町二丁目、日本橋人形町一丁目)

歓楽街吉原を開いた庄司甚左衛門の住まいがあったため、こうよばれた。甚右衛門町ともいう。甚左衛門はみんなから「親父」と親しまれていたため、彼がつくった橋は「親父橋」とよばれた。



ほんとだ、大名のお屋敷ばかり!



月見や夕涼みをするならここ!(でした)

9 三股富永町 (現・日本橋中洲)
川の流れて土が積み重なったところ(洲)を埋め立ててできた町。1772(安永元)年に三股富永町と名づけられた。かつては夕涼みや月見などを楽しむ名所としてにぎわい、茶屋などが並んでいたが、寛政の改革(→p.64)で取りはらわれた。